わが市を語る 1

滝川市（北海道）

世界に誇れる国際田園都市をめざして

滝川市長　前田康吉

はじめに

滝川の観光資源になった、作付面積日本一の「菜の花畑」

滝川市は、北海道のほぼ中央に位置し、石狩川と空知川に挟まれた平野部に広がっています。土地はおおむね平坦で、緩やかな丘陵地帯となっており、市の約6割の地域は森林や農地などの緑に囲まれています。

気候は、夏と冬の気温の差の激しい内陸性気候で、年平均気温は7度前後です。雪は11月下旬から降り始め、4月上旬まで続きます。積雪量は約7mと北海道内でも有数の豪雪地帯ですが、この雪が農業をはじめとする生活用水となり、豊かな恵みをもたらします。

滝川市の語源は、アイヌ語の「ソーラプチ」＝「滝下る所」に由来しています。

国道12号と国道38号、国道451号が通り、古くから札幌や旭川、道東方面などを結ぶ交通の要衝として発展し、周辺産炭地の石炭産業の隆盛により商業のまちとしても栄えました。

基幹産業は農業で、水稲、小麦、たまねぎが主要作物ですが、景観が素晴らしい「菜の花」は搾油用に栽培している作物でありながら、今や滝川の大きな観光資源に育ちました。開花時期に開催している「たきかわ菜の花まつり」に近年ではアジア圏内からも多くの観光客が訪れています。

世界に誇れる国際田園都市を目指して

本市は、豊かな自然に囲まれ、優れた農村景観と都市の便利さを兼ね備えた、都市と農村が調和したまちであり、グライダーのフライト回数日本一を誇る「たきかわスカイパーク」や、作付面積日本一の「菜の花」、日本で初の難病とたたかう子どもたちのための自然体験施設「そらぷちキッズキャンプ」など国内はもとより世界に誇れる地域資源や取り組みがあります。

また、滝川国際交流協会が中心となり、農業技術や学校教育、職業訓練などの多岐にわたる分野で90カ国以上から1200名を超える研修員を受け入れており、国際協力において国内有数の実績を持つほか、さらには米国へ中・高校生を派遣するジュニア大使訪問団派遣事業が本年度で26回を数えるなど、国際交流も盛んに行われています。

本市は、こうして培ってきた地域資源や地域の魅力をさらに磨き上げ、海外からの交流人口を増やし、にぎわいと活力あふれるまちを目指しています。

日本で最も美しい村連合に加盟

本市江部乙（えべおつ）地区の西側は日本で3番目に長く、北海道の肥沃（ひよく）な大地を生み出す石狩川（全長268km）の恵みを生かした田園が広がっています。一方、国道12号を境に丸加高原まで緩やかな丘陵地帯が続く東側では、春に菜の花が黄色い絨毯を編み、秋には甘酸っぱく香る真っ赤なりんごが収穫の時を待ちます。この丘陵地に広がる防風林は、北海道の厳しい風雪からりんごの木を守るために植えられたもので、現在もりんご農家の生活とともにあります。屯田兵による

開拓当時を彷彿させる風景は、江部乙の歴史を語る上で欠かせないもので、江部乙が生んだ偉大な日本画家「岩橋英遠」の作品にも描かれており、地域の人々にとって心の原風景とも言われています。

これら江部乙の農業や生活と密着した菜の花、りんご畑の防風林からなる美しい景観などが認められ、平成27年10月、「日本で最も美しい村」連合へ加盟しました。今後も先人たちが守り育ててきた景観を維持しつつ、地域の活性化へつなげることに大きな期待を寄せています。

「たきかわスカイパーク」には、日本中からグライダー愛好者が参集

定住自立圏構想の推進

本市を含む中空知5市5町は、全国に先駆けて市町の連携による広域行政圏を形成し、幅広い分野で圏域の発展を推進してきました。

平成26年には本市と隣接する砂川市とが中心市となり、「中空知定住自立圏構想」をスタートさせました。中空知医療圏の自治体病院6病院がそれぞれ有していた患者の診療情報を情報通信技術で共有する中空知医療連携ネットワークシステム「そらねっと」の取り組みをはじめ、福祉や教育、産業振興などの分野において各自治体が持つ都市機能や地域資源を有効に活用し、魅力ある圏域を形成していくための協力体制を築いています。

終わりに

日本全国で課題となっている人口減少問題。本市においても最優先の課題の1つと受け止めています。平成27年に「滝川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、課題克服に向け鋭意取り組んでいますが、中でも2つの重点プロジェクトについて紹介します。

1つは、厳しい冬の寒さを克服し、農業・食で通年雇用できる就業環境の創出を図る、企業と連携したバイオマスボイラーの実証試験などです。全国有数の米作地帯でもある本市において、大量に発生する不要なもみ殻を熱源に、冬場のハウス栽培がかなえば、高付加価値の作物栽培、稼げる冬の農業を創り出すことが可能だと考えています。

もう1つは中空知5市5町の連携による「しごとの魅力発信と総合的な就業・移住支援事業」を通じて、都市部に向けてしごとや暮らしの情報発信を行うほか、就業・移住希望者が中空知地域を巡るツアーや婚活イベントなどの取り組みです。本市のみならず、地域全体の魅力を発信することで、より多くの就業、移住の「きっかけ」を生み、「こんな仕事がしたい」「あんな場所に住んでみたい」という多様なニーズに応えるものと自負しています。

今後ますます都市間、地域間での競争が厳しくなるものと思いますが、近隣の市町が手を携えながら、協力できることは協力しつつも、互いに切磋琢磨し、都市部に負けない地域力をつけることで、持続可能な行政運営を目指していきたいと考えています。

プロフィール

滝川市長
前田康吉

◆**面積**　115・90㎢
◆**人口**　4万1241人
◆**世帯数**　2万1524世帯

〔将来都市像〕世界に誇れる国際田園都市をめざして

〔まちの特徴〕日本一の作付面積を誇る菜の花畑

〔特産品〕味付けジンギスカン、滝玉（たまねぎ）、雪割りなばな、合鴨、ハルユタカラーメン、菜種油

〔観光〕菜の花畑、たきかわスカイパーク（グライダー）

〔イベント〕たきかわ菜の花まつり、たきかわ紙袋ランターンフェスティバル

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 2

日立（ひたち）市（茨城県）

「ひたちらしさ」を生かした市民の笑顔があふれる都市づくり

日立市長　小川春樹（おがわはるき）

はじめに

日立市は、関東平野の北端、茨城県の北部にあり、東は雄大な太平洋に臨み、西は阿武隈山系に連なる、穏やかな気候に恵まれた四季折々の美しい自然を満喫できる都市です。

また、日立鉱山から生まれた現JX金属㈱や㈱日立製作所の発祥の地でもあり、「ものづくり」を基幹産業として発展してまいりました。

新田次郎の小説『ある町の高い煙突』に描かれたように、鉱山による煙害問題を市民、企業、行政が力を合わせ克服する過程で、大島桜などを植樹し、自然環境を守ってきた歴史があり、市民の誇りとなっています。

ユネスコの無形文化遺産となった「日立風流物」

さらに、昭和32年に開設した「かみね動物園」は、動物の生態を見せる展示に力を入れ、平成24年と平成28年に「市民ＺＯＯネットワーク」が主催するエンリッチメント大賞を受賞し、平成28年に開園からの入場者数が２０００万人を超えるなど、多くの人々に愛されています。

市民・企業との共生の原点「さくら」のまち

まちの歴史の象徴である市の花「さくら」は、市域全体に１万４０００本を超え、日本のさくら名所百選に選ばれている「平和通り・かみね公園」をはじめ市内一斉に咲き誇る4月上旬に開催する「日立さくらまつり」は、本市の春の代名詞です。

本年4月6日、7日には、さくらまつりに併せ本市で「全国さくらシンポジウム」を開催し、「さくら」による観光振興を進めるとともに、平成28年12月に山・鉾・屋台行事33件の一つとして改めてユネスコの無形文化遺産となった「日立風流物」（からくり人形を搭載した山車）を披露し、「ひたちらしさ」をＰＲします。また、満開の桜のアーチの下や海の上に架かる日立シーサイドロードを走る「さくらロードレース」を同時に開催し、親子連れから本格派まで全国から参加する１万人以上のランナーに、走る楽しみに加えて、この上ない絶景をご堪能いただきます。

今後も「さくら」を守り育て、先人の残した進取、共生の精神を後世に伝えたいと思っています。

子育て支援事業や特色ある教育の推進による、安心して子育てできるまち

企業城下町である本市では、就職による転入が多い一方で、大学進学や子育て世代が新居を求めるなどの理由で市外へ転出する傾向も見られます。このため、定住促進を目的に、子育て環境や本市ならではの教育環境の充実、本市で子育てする魅力を伝える取組などに力を入れています。

妊産婦・乳児の通院時のタクシー利用料金を助成する「マタニティ子育てタクシー助成」をはじめ、産前・産後の育児を支援する「産前・産後ママサポート」の無償提供、地元企業のＯＢなどで組織するＮＰＯによる小中学校の「理科教育支援」、地域のボランティアが働くことの大切さを伝える「職業探検少年団事業」など、子ど

もの出生から自立まで、切れ目のない支援を行うことにより、子どもたちが健やかに成長し、愛着や誇りを持って本市を定住場所としてもらえるように施策を進めています。平成28年11月には、これらの子育て支援や教育の施策、本市の魅力などを総合的にまとめた「子育て応援ハンドブック～ハッピー子育て」を作成し、中学生までの子どもがいる家庭にお配りしたほか、広くイベントなどで配布し、積極的に子育て世代へのPRに努めています。

東日本大震災からの復興、そして地域共創へ

東日本大震災では多くの市民が被災し、市民のスポーツの拠点であった体育館と市庁舎も建て替えを余儀なくされました。体育館は、本年1月に「日立市池の川さくらアリーナ」として生まれ変わり、平成31年に開催される「いきいき茨城ゆめ国体・ゆめ大会」で卓球やバスケットボール、体操などの競技会場となる予定であるほか、今後の文化イベントでの活用も期待されています。また、新たな市庁舎は、建築界のノーベル賞といわれる「プリツカー賞」を受賞し、市の顔である「JR日立駅」もデザイン監修した妹島和世氏の設計によるもので、間もなく完成し、7月には移転、執務を開始する予定です。

本年1月にオープンした「日立市池の川さくらアリーナ」

いずれも、復興のシンボルと位置付けた施設建設であり、今後はこれらの施設を拠点として、「ひたちらしさ」の一つである先駆的なコミュニティ活動や市民、企業などとの協働を一層進め、地域の活力向上を図っていきます。

おわりに

市長就任から間もなく2年を経過しようとしていますが、「みんなの力で地域共創～安心と活力に満ち笑顔輝くまち」の実現を目指し、人口減少や団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題などへもきめ細かく対応することを命題として種々の事業を進めてきました。平成27年には「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、特に「ひたちらしさ」を生かした地域の活力向上や子育て支援の充実などの施策に取り組みました。今後も、4月から新たにスタートする今後5年間の総合計画後期基本計画の中で重点プロジェクトとして位置付けた、若者子育て世代応援や生涯活躍社会の実現をはじめ、安全・安心の確保、都市力向上、産業の振興など、各種施策を着実に推進することにより、市民の誰もが本市を誇りとし、笑顔で暮らせるまちづくりを進めてまいります。

プロフィール

日立市長
小川 春樹

◆**面積**　225・74㎢
◆**人口**　18万5039人
◆**世帯数**　8万3508世帯

〔将来都市像〕生活未来都市・ひたち～知恵と自然が響き合い、くらしを明日につなぐまち～

〔まちの特徴〕豊かな自然環境に恵まれ、日本有数の工業都市として成長してきたものづくりのまち

〔市町村合併〕平成16年11月1日、旧日立市と旧十王町が合併

〔特産品〕口福あんこう、久慈浜しらす、さくらダコ、ポポーアイス・ワイン、茂宮かぼちゃ、茂宮はくさい、ぶどう、地酒

〔観光〕日立市かみね動物園、吉田正音楽記念館、日本のさくら名所百選（平和通り、かみね公園）、日本の快水浴場百選（伊師浜、河原子、水木）、鵜捕り場、国民宿舎鵜の岬

〔イベント〕日立さくらまつり、日立さくらロードレース、ひたち国際大道芸、日立港まつり、よかっぺまつり、ひたち秋祭り～郷土芸能大祭

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 3

秀吉公が最初に築いた城下町
――歴史・文化・芸術の薫り高きまち――

長浜市長　藤井勇治（ふじいゆうじ）

長浜市（ながはま）（滋賀県）

はじめに

長浜市は、日本一雄大な琵琶湖と豊かな美しい自然に囲まれた、歴史と文化、芸術のまちです。京都や大阪、名古屋などの関西や東海経済圏に車で1時間ほどという交通の要衝です。人口は約12万人、面積は琵琶湖とほぼ同じで、戦国武将・羽柴（豊臣）秀吉が最初に築いた城下町です。

秀吉は、琵琶湖のほとりに「長浜城」を造り、そこから天下統一に向けて、まちづくり・国づくりを始めます。最後は伏見城天守閣を造って天下統一を果たしますが、その最初の城が長浜城です。

そのため、長浜市民は、長浜城を「出世城」と呼び、「この地（近江）を制するものは天下を制す」とまで言われています。

地元住民が自らの手でよみがえらせた「中心市街地」

本市は、全国各地から毎年700万人の観光客が訪れる滋賀県随一の観光都市です。

長浜市といえば、全国的に「黒壁ガラス館」が有名ですが、これはもともと明治時代に建てられた旧国立第百三十銀行の長浜支店です。長浜の「中心市街地」のシンボル的な建物で、地元では、黒漆喰の外観から「黒壁銀行」として親しまれていました。

ところが、約30～40年前、全国的に商店街が疲弊し、長浜の中心市街地も存亡の危機にさらされました。そのころは、1時間に「人4人と犬1匹」が通るだけの閑散とした商店街だったのです。

そんな中、文化性や芸術性に優れ、当時西洋で人気のあった「ガラス」に目を付け、地元の企業家の方々が「黒壁銀行」をガラス文化の発信基地にしようと第三セクター「黒壁」を設立し、ガラス工芸品の販売を始めました。

これが人気を呼び、シャッターを閉めていた200軒の商店街には、レストランやお土産店などが次々にオープンし、今では毎年200万人の観光客が押し寄せる「黒壁スクエア」となりました。

この黒壁スクエアには、お洒落なガラスショップやレストラン、カフェやアートを体感できる体験教室なども多く、近くには長浜城や豊公園、竹生島などの観光資源も豊富なことから、若い方から年配の方まで年齢を問わずお越しになり、休日ともなると全国から大勢の観光客でにぎわいます。

ほかにも、余呉（よご）湖や賤ヶ岳などの豊かな自然や、仏像や寺社仏閣などの文化資源、菅浦の重要文化的景観や商家の家並みに昔の情緒を残す北国街道木之本宿、豊臣秀吉や石田三成、浅井三姉妹などの戦国ゆかりの歴史資源、「観音の里」と呼ばれる独自の観音文化などがあり、まさに歴史・文化・芸術の薫り高いまちです。

ユネスコ無形文化遺産 長浜曳山まつり

長浜の春を彩る「長浜曳山まつり」は、秀吉公が長浜城主の時代に始まります。これは、待望の男子誕生の祝いとして秀吉公から砂金を与えられた町衆が、それを基に曳山を造り、共に祝ったことが始まりとされています。

この祭りが、平成28年12月に国連の教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録されました。これは、祭りを支える山組の方々の400年に及ぶ継承、保存

のたゆまぬ努力が全世界から認められた証です。この登録は滋賀県で第1号となります。この祭りは全長浜市民の誇りであり、滋賀の宝です。

登録後初となる本年の祭りは、ユネスコ登録を祝して、全13基の山車が勢揃いし、4月15日に本日を迎えます。5歳から12歳までの男の子が、「動く美術館」と称される豪華絢爛（けんらん）な山車の上で演じる「子ども歌舞伎」は、長浜曳山まつりの最大の見どころです。

長浜曳山まつりの子ども歌舞伎

1カ月に及ぶ厳しい稽古を重ねた幼い子どもが、曳山の舞台で、堂々とした中に可憐さを秘めた大人顔負けの歌舞伎を演じる姿は、集まった見物客を大いに魅了し、拍手喝采を浴びます。

例年ですと、各曳山が3年に1度の順番で4基ずつ出番を迎えますが、平成29年は前述の通り13基が一堂に会します。これは過去に数えるほどしかありません。贅の限りを尽くした豪華絢爛な曳山が全基出揃う姿はまさに圧巻で、各山の個性を見比べる絶好の機会になると思います。

このような機会は数十年に一回のことです。この春に、ぜひとも長浜にお越しください。

子どもたちの健やかな成長を全市民が応援します

子どもたちは、未来を担う大切な宝です。そこで本市では、平成28年に、健やかな子どもの成長を市民全員で応援しようと、全国の12万都市以上で初めて「小学校給食費の無料化」を実施しました。併せて、子どもの多い家庭の保育料の負担軽減や、産前・産後ケア、病児・病後児保育の充実、地元大学を生かした理系人材の育成など、妊娠・出産・子育て・教育に至るまで、各々のライフステージに応じたさまざまな施策を展開するなど、「地方創生」の取り組みを積極的に進め、市政の推進に全力を挙げています。

市民全員で支える小学校給食

プロフィール

長浜市長
藤井勇治

◆面積　681・02㎢
◆人口　12万123人
◆世帯数　4万4960世帯

〔将来都市像〕新たな感性を生かしみんなで未来を創るまち　長浜

〔まちの特徴〕滋賀県の東北部に位置し、福井県、岐阜県と隣接。伊吹山系の山々と琵琶湖に囲まれた、戦国武将・羽柴（豊臣）秀吉が最初に築いた城下町

〔市町村合併〕平成18年2月13日、旧長浜市と浅井町、びわ町が合併。平成22年1月1日、旧虎姫町、湖北町、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町と合併

〔特産品〕ビワマス料理、鴨料理、鮎料理、鯖そうめん、鮒すし、浜ちりめんなど

〔観光〕琵琶湖、余呉湖、黒壁スクエア、竹生島、長浜城歴史博物館、小谷城跡、観音信仰、鶏足寺の紅葉など

〔イベント〕ユネスコ無形文化遺産「長浜曳山まつり」、長浜・北びわ湖大花火大会、長浜きもの大園遊会、観音の里ふるさとまつり、長浜盆梅展など

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

対馬（つしま）市（長崎県）

これまでもこれからも「国境の架け橋」として

対馬市長　比田勝尚喜（ひたかつなおき）

はじめに

対馬は、古事記にあるイザナギ・イザナミの「国産み」によって産み出された「大八島」の一つに数えられ、古くは「津島」と称されました。日本から大陸へ、大陸から日本へ渡る人々にとって、対馬が「津の島」であったことは地図を一見いただければお分かりになると思います。

韓国展望所から望む釜山の夜景（手前は航空自衛隊海栗島分屯基地）

ツシマを〝対馬〟と初めて呼んだのは、3世紀に記された『魏志倭人伝』といわれ、これが先例となって「対馬」の名称が定着したといわれています。その『魏志倭人伝』は対馬の特徴を端的にとらえています。

「始めて一海を度（わた）る千余里、対馬国に至る。（中略）。居る所絶島、方四百余里ばかり。土地は山険しく、深林多く、道路は禽鹿（きんろく）の小径（こみち）の如し。千余戸あり。良田なく、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市糴（してき）す（断崖絶壁が多く、山が深く、道は獣道のように細い。また、水田が少なく、海産物を食し、日本本土と朝鮮半島を往来して交易を行っている）。」

対馬は、日本本土と大陸に挟まれたその地理的条件により、外交にまつわる日本史上に枚挙に暇がないほどに登場します。白村江敗戦後の防人の設置、遣隋使・遣唐使、2度にわたる元寇、応永の外寇、朝鮮出兵、露艦対馬占領事件、日露対馬沖海戦…などなど、対馬は常に時代の波に翻弄されてきた島と言っても過言ではありません。

「国境の架け橋」として

中でも、朝鮮出兵から国交回復に至るまでの間は、対馬が最も混乱を極めた時代であったといえます。耕地に乏しい対馬は、朝鮮との交易が主な収入源でした。時の島主「宗義智公（そうよしとし）（宗家第19代島主）」は、何度も海峡を往来し、戦を避けるため奔走しますが、天下人の命には逆らえず義父・小西行長とともに朝鮮に出陣します。この行為を対馬の裏切りととらえた朝鮮国王は、義智公の首に懸賞金をかけたといわれています。

2度にわたる朝鮮出兵は秀吉公の死によって終結しますが、今度は、家康公から朝鮮との国交回復を命じられます。義智公は朝鮮国の信頼を取り戻すため、何度も家臣を朝鮮に送りますが、誰一人対馬に帰ることはありませんでした。また朝鮮国は、国交回復にあたり「先為国書（先に国書を送る）」を条件に出してきます。先に国書を送ることは臣下の礼をとる意味となるため、家康公は応じるはずがないと認識していた義智公は、特命であった国交回復および対馬の生命線である交易の再開のため、あろうことか国書の偽造を決断します。まさに対馬の存亡をかけた決断でありました。その甲斐もあって、1607（慶長12）年「回答兼刷還使」の来日が実現し、これが江戸時代の「朝鮮通信使」の始まりとなります。以後、将軍代替わりのたびに派遣され、1811年までの約200年間に12回来日

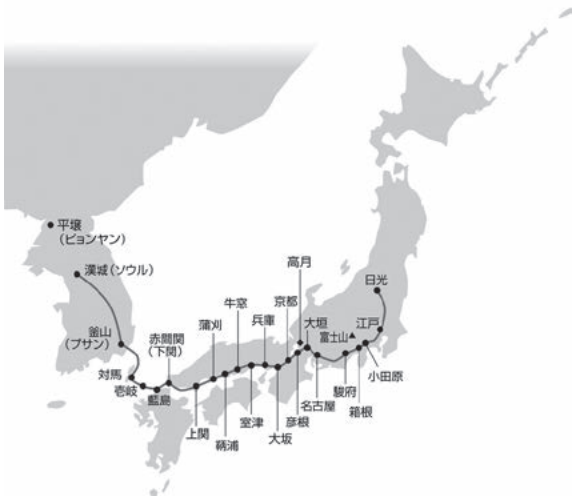
することとなり、世界史上類を見ない期間、隣国同士の友好が保たれるきっかけとなりました。

※対馬市では、この歴史を多くの皆さんに知っていただけるように、脚本家ジェームス三木先生書き下ろしのミュージカル「対馬物語」として、市民有志で構成する劇団によりこれまでに日韓5都市で公演しております。

「朝鮮通信使」を日韓の友好親善に

幾重にもわたる苦難の上に咲かせた日韓両国友好の証「朝鮮通信使」を、現代の友好親善に生かそうと、通信使にゆかりのある21市町10団体で「朝鮮通信使縁地連絡協議会（縁地連）」が発足したのが平成7年。以後、日韓各地で交流大会を重ね、先人の労苦に思いを馳せながら、日韓の友好親善の一端を担ってきました。活動の根底に流れるのは「誠信交隣」。江戸時代の対馬藩儒学者・雨森芳州が説いた言葉で、「互いに欺かず争わず、真実を以ての交わり」を意味します。

現在、朝鮮通信使関係資料を「ユネスコ記憶遺産」へ登録すべく、取り組んでいるところです。平成28年3月には、縁地連と韓国釜山市の外郭団体である釜山文化財団がユネスコ本部に共同申請書を提出し、11月には私も両団体とともにフランス・パリのユネスコ本部を訪問。審査や登録のスケジュールについて意見交換を行うとともに、講演会・資料展示を行い、朝鮮通信使の果たした歴史的な役割の重要性・普遍性をPRしてまいりました。ケースの少ない2国間による共同申請ということもあり、ユネスコ本部からは「大変良いプログラムだ」との評価をいただき、本年秋にも登録が期待されるところです。



朝鮮通信使のルート

むすびに

対馬ほど国際情勢に敏感にならざるを得ない自治体は無いのではないでしょうか。一衣帯水の隣国である韓国との交流は、これまでもこれからも無くてはならないものであります。交流に際して諸々の問題は存在いたしますが、私たちの先人は幾多の苦難を乗り越え、島を後世につないでくれました。

この4月には国境離島地域にかかる地域社会の維持などを目的とした有人国境離島法が施行され、国もこれまで以上に国境に光を当ててくださるようになりました。さまざまな後押しをいただきながら、また、先人に恥じぬよう、これからも本市は誠信交隣の精神で「国境の架け橋」としての役目を果たしてまいりたいと存じます。

プロフィール

対馬市長
比田勝尚喜

◆**面積**　７０８・６３㎢
◆**人口**　３万１７９８人
◆**世帯数**　１万５１３０世帯

〔将来都市像〕アジアに発信する歴史街道都市

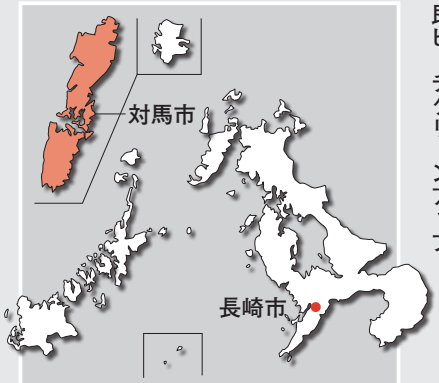
〔まちの特徴〕九州の最北端に位置し、九州本土までは１３８㎞、韓国：釜山までは４９・５㎞にある都市

〔市町村合併〕平成16年3月1日、厳原町、美津島町、豊玉町、峰町、上県町、上対馬町が対等合併し、誕生

〔特産品〕アナゴ、ヒジキ、サザエ、ニホンミツバチ蜂蜜、しいたけ、養殖クロマグロ、対州そば、ろくべえ

〔観光〕浅茅湾、宗家墓所万松院、和多都美神社、韓国展望所、ヒトツバタゴ自生地、日露友好の丘

〔イベント〕対馬厳原港まつり、国境マラソンIN対馬、赤米神事、日韓市民ビーチクリーンアップ



※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。